

メルマガご愛読の皆様、こんにちは。

NPO 法人多言語広場(ピアザ)CELULAS の尾本です。(以下セルラスと表記します)

今年も「災害レベル」といわれるほどの暑い夏ですが、セルラスの夏も韓国交流や青少年サマーキャンプ、そして「子供から大人まで、全員が何かにチャレンジをする！」ということで、熱〜い夏となっています。前回のメルマガでは関東で行われたホリデースーパーピアザでの「大人チャレンジ」への感想を掲載させていただきましたが、今回は関西のお母さんの感想です。思春期で難しい年頃の娘さんとの関わり方を大きく変えるきっかけとなった今回の「大人チャレンジ」。この夏、みなさんは何にチャレンジをして、何を見つけるのでしょうか？

---

### 『大人チャレンジをやったことで起きた3つの変化とは？』

宝塚市在住 高橋さちえさん(家族構成：夫・娘中3)

私たち家族がセルラスの活動に参加するようになって、今2年ちょっとです。

セルラスに参加するようになったのは娘が中学に入ってからで、娘の周りの子が小さいころから英語をやっているのに対して、うちでは何もやっていなくて、当時の私は英語に対して少し焦っていました。

体験会に参加した時に、娘が自分と年の近い子供たちがいろいろな言語で話しているのを見て、「やりたい！」というので入会をしました。

ですから、私自身はあくまで「子どもの付き添い」というスタンスでピアザに参加していました。

そんな私が先日の夏のホリデースーパーピアザで、多言語チャレンジをしました！

自分のそんな姿は1カ月くらい前までは想像すらしていませんでしたが、今回のチャレンジを通して、私自身、そして親子の間でいくつか変化が起こったのです。

#### 【多言語がスルスルと入ってくる感覚を知った】

今年の4月に、メキシコのネリーさんがホームステイで我が家に来ました。

彼女は日本の伝統食品が大好きで、味噌汁を幸せそうに食べ、納豆やぬか漬、梅干しも喜んで食べてくれました。そこで、ネリーさんと一緒に味噌を作ることになりました。

なぜなら私はお料理が好きで、特に味噌や梅干しなど、日本の伝統的な発酵食品を普段から手作りしていたからです。

まさか、メキシコの方と一緒に味噌を作れるとは思ってなかったもので、そんな意外性もあいまって、とても楽しい思い出となりました。

そして、その出来事を6月に自分の参加しているピアザ(※1)で開催された「プレゼン大会」で話すことにしたのでした。

私の所属している「宝塚ピアザ」では、年に数回プレゼン大会があり、日本語もたどたどしい小さな子供から、シニアまで、全員が話をします。

私は当初、セルラスのストーリーブックの中のお話の1つである、「キムチ作り」を活用して、ネリーさんとの味噌作りをスペイン語で話してみようと思いました。

でも、あまりの難しさに諦め、結局日本語ではなしました。

その時、コーディネーターから、「今度、スペイン語でこのお話をやってみない？」と言われ、「そうだよな、スペイン語で話せたら面白いかもしれない。」とは思いました。

しかし、実現するのは来年くらいかな～と考えていました。

ところが、その数週間後に行われた全体会で、多言語でそれをやることができたのです。

もちろん、最初は どうやって準備したらいいのかさっぱり分からず、スーパーピアザ(※2)でコーディネーターや他のメンバーからヒントやアドバイスをたくさんもらいました。

今まで CD を聞いてもなかなか頭に残らなかった多言語の音でしたが、今回は不思議とスルスル入ってきました。恐らく、実際に自分で体験して、「伝えたい」という想いやイメージがあったからだと思います。

このことから「体験」と「想い」、「リアリティー」は、ことばを話すためにすごく大切なのだと実感できました。

### 【子どもに対して威張る親をやめた】

今まで、自分の娘よりも小さな子供たちが、一生懸命多言語で話したりする姿を見る度に、

「うちの子もああなって欲しい」「いつになったら、ああなるのか？」と、とてもヤキモキしていました。

そこで、娘に「頑張りなさい！」と観客席から野次を飛ばすかのように言い続けていました。

自分は何もしないのに…。

それが、今回は自分が多言語で話をする事になり、準備の大変さや本番での緊張感を体験して、初めて子どもの苦勞が分かりました。

チャレンジを終えた後は、ものすごい達成感で、その晩に飲んだ梅酒の美味しかったことといたら…。

梅酒を飲みながら、私は今までの自分を振り返り考えました。

今までは子どもの行動にヤキモキするばかりで、ストレスを積もらせていました。

それよりも、子どもにチャレンジして欲しいことを自らやってみる方が、よっぽどストレスがなく、お互いに発展性があるのではないかな？

そこで、出てきた結論は、

『「頑張りなさい！」とうるさく言って威張る親をやめ、自分がやってみる』ということでした。

### 【多言語をもっと学びたいと思うようになった】

このチャレンジを通して、これまですごく遠い存在だった多言語が身近になりました。

そして、もっと多言語を頑張ってみようと思えるようになりました。

ずっと「娘の付き添い」というスタンスを貫いてきましたが、娘と一緒に多言語をもっと知り、話せたら楽しいかもしれないと思いました。

そして私の行動と意識が変わることで、親子関係も良い方向に変わってきたように感じます。

「大人チャレンジ」は私自身と親子関係にすごい変化を起こしてくれました。

観客席から、一気にマウンドに飛び込むほどの挑戦でしたが、やってみて良かったなと素直に思っています。

※1 ピアザ：週に1度各地域で集まる活動の場。様々な年代の人たちと多言語活動を行う。

※2 スーパーピアザ…月に1回、主に平日の午前に大人を中心にピアザの枠を越えて活動をする場。

90号、91号と引き続き「大人チャレンジ」への感想を掲載させていただきましたが、いかがでしたでしょうか？セルラスでは、「外から固める」ではなく、「内側から見つけ動く」ということを大切にしています。

お母さんが何か内側から見つけて動いたことで、ますます発展性のある関係が親子で築いていけるといいですね。